

シグマ委員会炉定数専門部会 炉定数評価作業グループ議事録

- 日 時 6月10日(水) 13時30分～17時
- 場 所 原研本部第3会議室
- 出席者 菅原, 中野(MADI), 川合(NAIG)
松延(住友), 大竹(富士), 瑞慶覧(日立), 桂木, 石黒(原研)
- 配布資料 炉定数及びコードの現状評価作業(案)

議 事

- I 45年度炉定数グループ作業計画の説明
- II 炉定数及びコードの現状評価作業計画

上記配布資料に基づいて討議が行なわれ、次のような点で意見の一一致が得られた。

- 1) 求めるべき量は“配布資料—TABLE—I”に記入されているものとし、
Spectral Indices 及び Material Worths の計算は Perturbation
Method で行ない Davey の式を用いるものとする。
但し、 perturbation cross sections は各反応の component
(分裂, 吸収, 散乱) に分けて結果を出す。また、体系内に存在しない核
種の断面積は無限希釈に対するものを用いる。
- 2) 用いる定数は“ABBN”(ドイツ版)と“各機関所有のもの”(住友,
MAP Iを除く)とするが、予算の都合上後者を優先して用いる。
- 3) 計算結果は TABLE—I に記入することとし、その場合計算法等の特殊
なものや EXPANDA-II との相違点があれば別紙にできるだけ詳しく記
入する。なお、期限は7月下旬とする。
- 4) 計算予算は各研究機関ごとに20万円以内とする。予算上の手続きとし
ての各研究機関への計算依頼は2週間ぐらいかかるとの説明があった。

次回予定 7月中旬

以 上